希望を抱き明るい未来をともに築こう!

Together

vol.239 3月号 2016

今月の付録

安定経営の鍵は Work Life Balance

Together Interview 岩手県盛岡市 医療法人 尚歯会 菊月歯科医院
理事長 菊月 圭吾 先生 ・ 由理子 先生

NEW 生きることは食べること!

管理栄養士 佐藤真由美

2016年
新リコールカード

企画ご案内
●新規ツールシェアのご紹介
2016年3月 登録

Together
INTERVIEW 229

岩手県盛岡市

医療法人尚歯会
菊月歯科医院

理事長　菊月 圭吾（きくづき けいご）先生・由理子（ゆりこ）先生

安定経営の鍵はWork Life Balance

スタッフのうち８人がお母さん！地域にしっかり根を張る「頼られるホームドクター」菊月歯科医院のみなさん

●今回は、本誌に「東日本大震災における『生前資料と死後記録の照合作業』」をご寄稿していただいた、岩手県盛岡市の菊月圭吾先生（61）を訪問しました。●菊月先生は岩手医科大学歯学部を卒業後、盛岡市で菊月歯科医院を開業して32年、穏やかで誠実な人柄とていねいな説明、やさしい治療で、地域に根ざしたホームドクターとして患者さんに愛され、安定経営を続けています。●医院の特徴は、由理子副院長とのドクター２名体制で補綴と矯正をカバーしていることに加えてスタッフ力が極めて安定していることにあります。ほとんど勤続10年以上で平均14年以上といいますから並ではありません。スタッフが安心して働ける環境Work Life Balance. 激戦区のなかで30年間安定経営を誇っている秘密がそこにあります。スタッフの笑顔は患者さんの笑顔に直結しています。●岩手は５年前の東日本大震災で沿岸部が大津波で壊滅的な打撃をうけました、菊月先生は岩手県歯科医師会の警察歯科担当役員として、発災直後から歯科所見採取や身元確認の第一線で昼夜を分かたず奮闘しました。そこで得た教訓とノウハウをぜひ活かしてほしい、その思いと経験を伝える活動も積極的に行っている「熱いハート」のドクターです。

▼松園ニュータウンに開業して32年（松園２丁目に移転して28年）。駐車場は医院前と第２駐車場でスタッフ分含め16台分用意している

■理事長プロフィール：●1954年（昭和29年）７月岩手県生まれ。1979年（昭和54年）３月岩手医科大学歯学部卒業。卒業後、母校の歯科補綴学教室に5年 余在籍、同時に岩手県室根村歯科診療所長を歴任。1984年（昭和54年）７月岩手医大同窓の由理子夫人とともに盛岡市の松園1丁目に開業（ユニット3台）。1988年（昭和63年）松園2丁目の現在地に移転開業（ユニット5台）。1993年（平成5年）学位取得（歯学博士）。医療法人化。2002年（平成14年）歯科医師臨床研修施設指定。2006年（平成18年）歯科衛生士臨床教育施設指定。

■所属学会等●理事長：歯科医師臨床研修指導医・社団法人岩手県歯科医師会・日本法歯科医学会・日本補綴歯科学会・日本歯科東洋医学会・日本睡眠歯科学会●**副院長：**歯科医師臨床研修指導医・介護支援専門員（ケアマネージャー）・日本矯正歯科学会・東北矯正歯科学会

■医院DATA：診療内容：一般歯科・小児歯科・矯正歯科
●診療スタッフ：歯科医師2・歯科衛生士2・歯科技工士2・歯科助手4・受付事務2　●ユニット6台
●診療時間：月・火・木・金曜　9:30-13:00　14:30-18:00
土曜9:00-13:00　●休診日：水曜・日曜・祝日・土曜午後
●患者数1日約50人

来院者は1日約50人。受付の斉藤さん（左）は勤続16年、今月から2回目の産休に入る

待合室にはフェルメールのリトグラフや立体アートの額がさりげなく飾られている

●「頼られるホームドクター」として

――岩手医大歯学部のある盛岡市は「歯科の激戦区」ですが、そこで32年間安定経営を続けてこられたことはすごいことだと思います。

菊月　ありがとうございます。私は盛岡に生まれてずっとこの街で暮らしてきました。この大好きな街で開業して32年、地域の皆さんには歯科の診療はもとより、子育てから地域活動までほんとうにお世話になっています。

私たちが掲げている「医業理念」、立ち位置は、**皆様から頼られる「ホームドクター」として確かな診療を行う**ということです。それを実行する診療方針として以下の４本柱を掲げています。それは、**①患者さん一人ひとりのニーズに合った最適な治療**を行います。「人を診る医療」はまず患者さんを知り、願いを知ることから始まります。話をよく聞き、わかりやすく説明し、できるかぎり最新の情報を提供しています。そして**②やさしく丁寧でかつ的確な診療**を行います。とりわけ、歯を守ること、痛くない治療、患者さんに「納得していただける治療」を心がけています。納得していただくために、私たちは診療中も絶えず説明しています。さらに**③定期健診でむし歯や歯周病の発症予防・再発予防**をめざしています。さらに口腔機能の保全や育成をつうじて**④全身の健康に寄与する歯科治療**を行っています。たとえば歯周病を治療して糖尿病の悪化を防ぐ、子どもの咬合育成、狭窄歯列拡大で顎関節症やSASなどの改善をはかる治療を行うほか、全身疾患のある方の治療は地域の医科の先生や大学病院と連携して行っています。

診療を行う上で患者さんへの説明やコミュニケーションが不可欠で、すべてのシーンでコムネットの資料やツールが活躍しており、活用しない日は１日もありません。

●勤続年数平均１４年超のスタッフ

――患者さん本位のていねいな診療をされていることがよくわかります。その診療を支える「チーム菊月」のスタッフの皆さんが院長先生の一番のご自慢と伺いました。

菊月　そうなんです。菊月歯科の最大の特徴といえると思います。みんな笑顔で若々しいですが、じつは10年15年選手はザラで、８人がお母さんです。産休を２回経験している人が２人、勤続18年の歯科衛生士のMさんはご主人の転勤で退職し仙台に行きましたが、その間に子どもが３人生まれました。彼女にはこれまでスタッフが着用したマタニティウエアや赤ちゃん用品を送って応援しました。彼女はまた盛岡に戻って再就職してくれています。

私たちは、少子高齢化が進む今の時代に、地域医療に責任を負う歯科医院として、この地域の女性たち一人ひとりが子どもを産み、育てながら安心して働くことができる環境づくりをすることが社会的責務であると考えています。具体的には、有休の完全消化、子どもの病気や学校行事の際に気兼ねなく休めるバックアップ体制作りにとりくんでいますが、日常的に「ノー残業」で６時の診療終了とともにできるだけ早く退出することにしています。また休診日が水曜・日曜プラス土曜の午後なので「週休2.5日」を保証しています。

みんな長く働いてくれて、スタッフの平均勤続年数は14年を超えています。安心して働ける環境のもとではスタッフも笑顔で患者さんにもやさしく、ゆったり接することができます。高齢者にも子どもへの対応も上手ですし、お母さんの子育ての悩みを聞いたりアドバイスもできる。それが地域の一員としてのすばらしい働きなのです。よく「スタッフが集まらない」「歯科衛生士がいない」という悩みを聞きますが、それを嘆く前に「働きたくなる歯科医院」にすることが先決だと思います。スタッフが

患者さんのニーズに応える診療・歯を守り痛くない治療・定期健診で予防管理・全身の健康に寄与する診療をめざしている

補綴が専門の院長と矯正専門医の由理子先生。矯正はデーモンシステムを採用している

技工室。ＤＴ２名体制の院内技工。スピードとクオリティに優れている

2月2日に放送されたNHKの東日本大震災証言記録「あの日わたしは」

取材した日、菊月先生はスタッフ全員の前で自らの大震災の体験や歯科医師会の取り組み、震災からの教訓や秘話を語った。スタッフからは、棚に目張りをしてカルテを守った釜石の院長夫人の行動に驚きと称賛の声が上がった

自慢できる歯科医院は患者さんにとっても「行きたくなる歯科医院」になるはずです。

●Work Life Balance Policy

――菊月歯科医院ではその考え方をWork Life Balance Policy（仕事と家庭生活との両立支援のポリシー）として明文化されていますね。

菊月　当院が『仕事と家庭生活との両立支援のポリシー』に掲げた7つの宣言のうち3つをご紹介します(全文はホームページをご覧ください)。

- **働く女性に対する社会的理解を職場のなかで共有するよう努めます。**
- **女性が安心して子どもを産み育てられる職場環境づくりに永続的に取り組みます。**
- **職場で働く者同士の仕事と家庭生活との調和の大切さについての相互理解を深めます。**

私は、このような医院の風土を作ることが、スタッフのやる気と向上心に灯をともし、それがより良い診療につながり、ひいては地域への貢献、社会貢献につながると確信しています。何よりもみんなに笑顔でイキイキと働いてもらえるのが一番嬉しいです。

●東日本大震災の教訓を生かす

――最後に、今菊月先生が熱心に取り組んでおられる東日本大震災の教訓を伝える活動についてお聞かせください。

菊月　3.11直後は停電になって情報が遮断されどこで何が起こっているのか全くわかりませんでした。私は当時警察歯科担当常務理事で、翌日の朝にケータイの充電のお願いをかねて県警本部に行くと即「第1回災害対策本部」の会議が開かれ、そこから震災対応が始まりました。

私たちが取り組んだことは、Togetherにも書かせていただき、先月はNHKにも取り上げられました。ご遺体の身元確認で一番困難だったのは、生前情報が集まらなかったことです。ある市の危機管理担当からは「個人情報の取り扱いが難しい。前例がない」と回答され、とても非常事態の対応とは思えない状況でした。また、私たちは発災直後に日本歯科医師会や法医学会に対して全国統一の歯科所見採取のガイドラインや照合システムを提示するよう要請しましたがそれも示されず、私たちは独自で「36（サブロク）検索」という、簡便で有効性が高い検索方法を考案しました。この2点をぜひこれからも必ず起こる災害に活かしてほしいと願います。残念ながら国も上層部も本気で次の災害に備えようとしていません。それについては、あの大震災を体験した歯科医師として、今後も警鐘を鳴らしていかなければと考えています。大震災を過去のものとして風化させてはならない。震災後5年経った今それを強く感じています。

――ありがとうございました。これまでほとんど話されなかったという震災秘話をスタッフのみなさんと一緒にお聞きして、当時の記憶がよみがえるとともに、菊月先生をはじめ岩手の歯科医師のみなさんのご努力とご苦労にあらためて感謝と尊敬の念を抱きました。災害対策の啓発活動はぜひこれからも続けていただきたいと思います。 菊

この4人のメンバーは、勤続20年で一児の母の田之岡さん、同18年で3人の母三浦さん、斉藤さん、産休2度経験の10年選手永井さん。

サポート担当者より

●昨年 9 月に医院に再訪した事がきっかけとなり、菊月先生には Together237 号・238 号と 2 回にわたり「被災地からのメッセージ」をご寄稿いただきました。快く執筆をお引き受けいただき、心よりお礼を申しあげます。●コムネットも被災地の支援活動を続けておりますが、震災の記憶を風化させないためにも、また次の災害への備えをするためにも継続した取り組みが大切なのだと改めて感じました。●誠実に地域の方々の健康を守り続けてきた菊月歯科医院の皆さまを、これからもしっかりサポートさせていただきたいと思います！ T

菊月歯科医院ホームページ 》 http://kikuzuki-dental.com